

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和2年度 技術情報第11号(果樹カメムシ類)について (送付)



果樹カメムシ類の予察灯では越冬世代とみられる成虫の誘殺数が5月から多く認められ、出水市では8月以降も多い状況が続いています。一部の果樹園では飛来も認められ、果樹園での見回りと適期防除が必要です。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ ([www.jpnpn.ne.jp/kagoshima](http://www.jpnpn.ne.jp/kagoshima)) にも掲載しています。

## 令和2年度 技術情報第11号

1 対象病害虫 果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ, ツヤアオカメムシ)

2 対象作物 カンキツ類, ナシ

### 3 予察灯での誘殺状況等

- (1) 予察灯での誘殺数は平年に比べて多い傾向にあり、出水市(美原町)に設置している予察灯では8月以降もチャバネアオカメムシが多く誘殺されている(図1)。
- (2) 7月末には極早生温州(出水市)、キンカン(薩摩川内市、さつま町)及び、ナシ(さつま町)で飛来が確認されている。一部のナシ、キンカンでは被害が確認されている。
- (3) 主要な餌植物であるヒノキの球果量は平年並で(表1)、7月後期に調査した球果上の成虫による口針鞘数の平均は2.2本/果(平年2.5本/果)と平年並みであったが、いちき串木野市では7.7本/果と多かった(表2)。今後、球果への食害が進み餌として適さなくなった場合や、台風の接近で球果が落下すると、果樹園への飛来が多くなる恐れがある。

### 4 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹カメムシ類は日没直後に果樹園に飛来し吸汁加害するので、園を見回り、飛来を認めたら早急に防除する。特に予察灯で誘殺数の多い出水市を中心に北薩地域では注意が必要である。
- (2) ハウス栽培では、開口部を中心に防虫網(4mm目合い以下)で被覆し侵入を防ぐ。
- (3) ヒノキ上での果樹カメムシ類の発生状況や予察灯での誘殺状況については、病害虫防除所のホームページに掲載する。最新の誘殺状況を確認し、防除要否の参考にする。
- (4) 薬剤は、比較的残効の長いネオニコチノイド系薬剤または合成ピレスロイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類の発生を助長する可能性があるため、散布後はハダニ類の発生に注意する。
- (5) 薬剤の使用にあたっては、使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺の農作物への飛散防止に留意する。

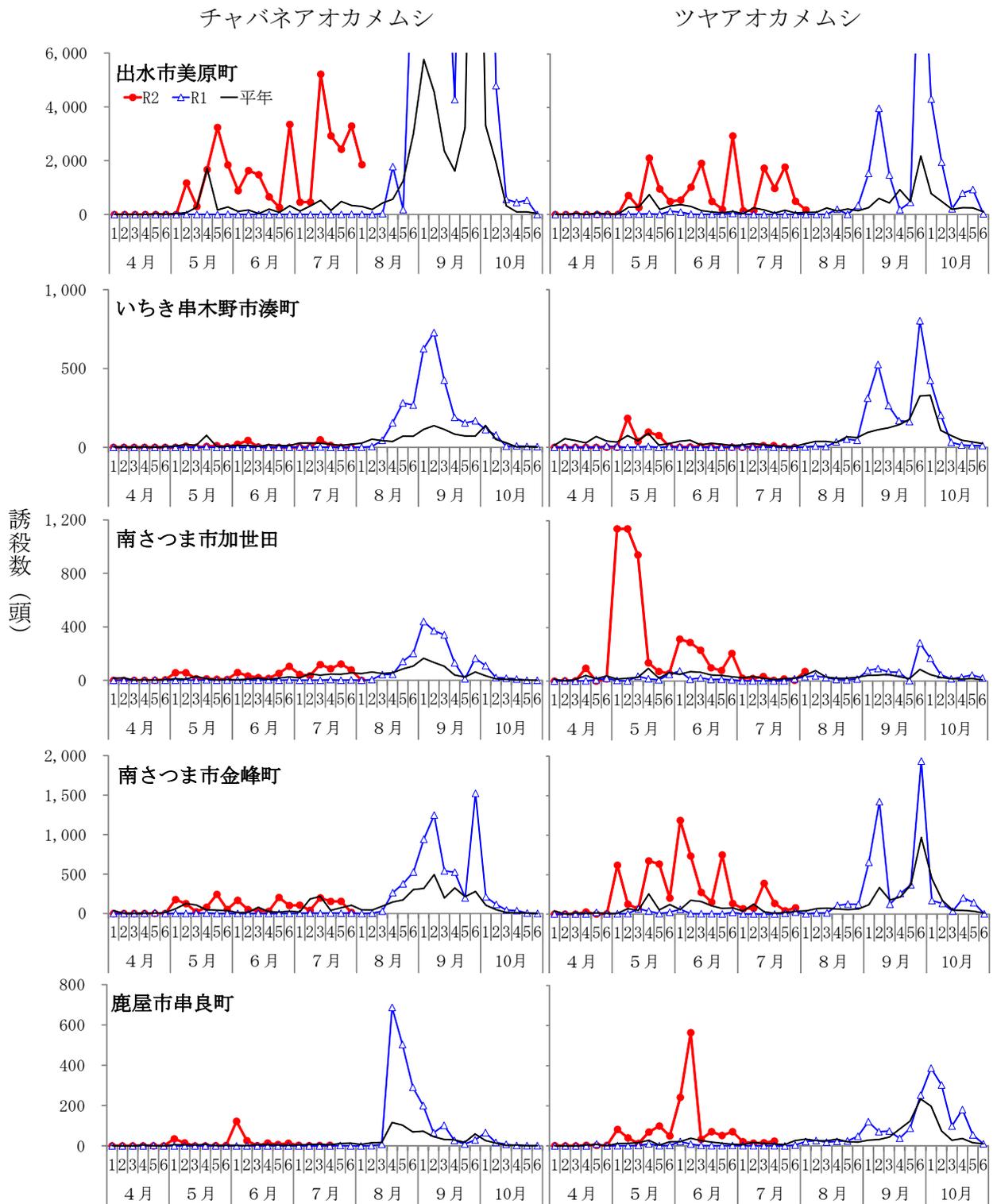


図1 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移

表1 餌植物（ヒノキ）の球果量指数

調査地域	本年	平年
南薩	64.3	44.6
北薩	42.9	42.8
始良	71.4	40.9
大隅	50.0	39.9
平均	53.6	43.6

注1) 球果量指数は愛媛県（2018）による。球果量が多いと指数が高く、少ないと指数が低くなる。

2) 球果量指数： $((\text{極多地点数} \times 7) + (\text{多地点数} \times 6) + (\text{やや多地点数} \times 5) + (\text{中地点数} \times 4) + (\text{やや少地点数} \times 3) + (\text{少地点数} \times 2) + (\text{極少地点数} \times 1)) / (\text{総地点数} \times 7) \times 100$

3) 平年は、2010～2019年の10年間の平均。

表2 ヒノキ球果の吸汁痕数（口針鞘数）の推移（単位：本/果）

調査場所	7月		8月		9月	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
南さつま市	2.5	1.4	—	—	—	—
いちき串木野市	0.0	7.7	—	—	—	—
出水市	0.1	1.5	—	—	—	—
霧島市	0.1	0.4	—	—	—	—
曾於市	1.8	0.2	—	—	—	—
本年平均	0.9	2.2	—	—	—	—
平年平均	0.2	2.5	5.9	10.3	15.4	20.2

注1) 7月前期の調査は7/9～10、7月後期は7/21～22に実施。

2) 平年は2010年～2019年の10年間の平均。